2Gp-4

蹴鞠衣裳の研究 (1) 歴史と文様について

○弓削公子
(大阪女子短大)

目的　日本古来の伝統衣裳を身につけ数人の男女がかけ声をかけ合いサッカーさながら鞠を足でけり上げて興じる蹴鞠がある。この蹴鞠競技の時に身につけている衣裳のカラフルな色合いそして文様に関心をもち、今回、文様についての調査研究を行いその結果を考察した。

方法　蹴鞠保存会会館。天理大学附属天理参考館。京都府立総合資料館。大阪府立中之島図書館。談山神社。下鴨神社、白峰神社。平野神社等に現存する古文書、資料により調査をおこなった。

結果　明治、大正時代にかけて現存する資料（水干10点、袴7点）を調査した結果、文様のうち、飛鳥奈良時代の法隆寺献納宝物の忍冬文、奈良平安時代の宝相文や唐草文、鎌倉室町時代の七宝文、あられ文、青海波文、南蛮文様、江戸初期の菊文などがある。

これらの文様はギリシャや西アジア、中国やポルトガルなどの文様がこの蹴鞠の衣裳に使用されていた。又その中心は宗教的なかかわりのする芸術的な衣裳であることが判明した。今後は形態，色彩などを明らかにして行きたい。